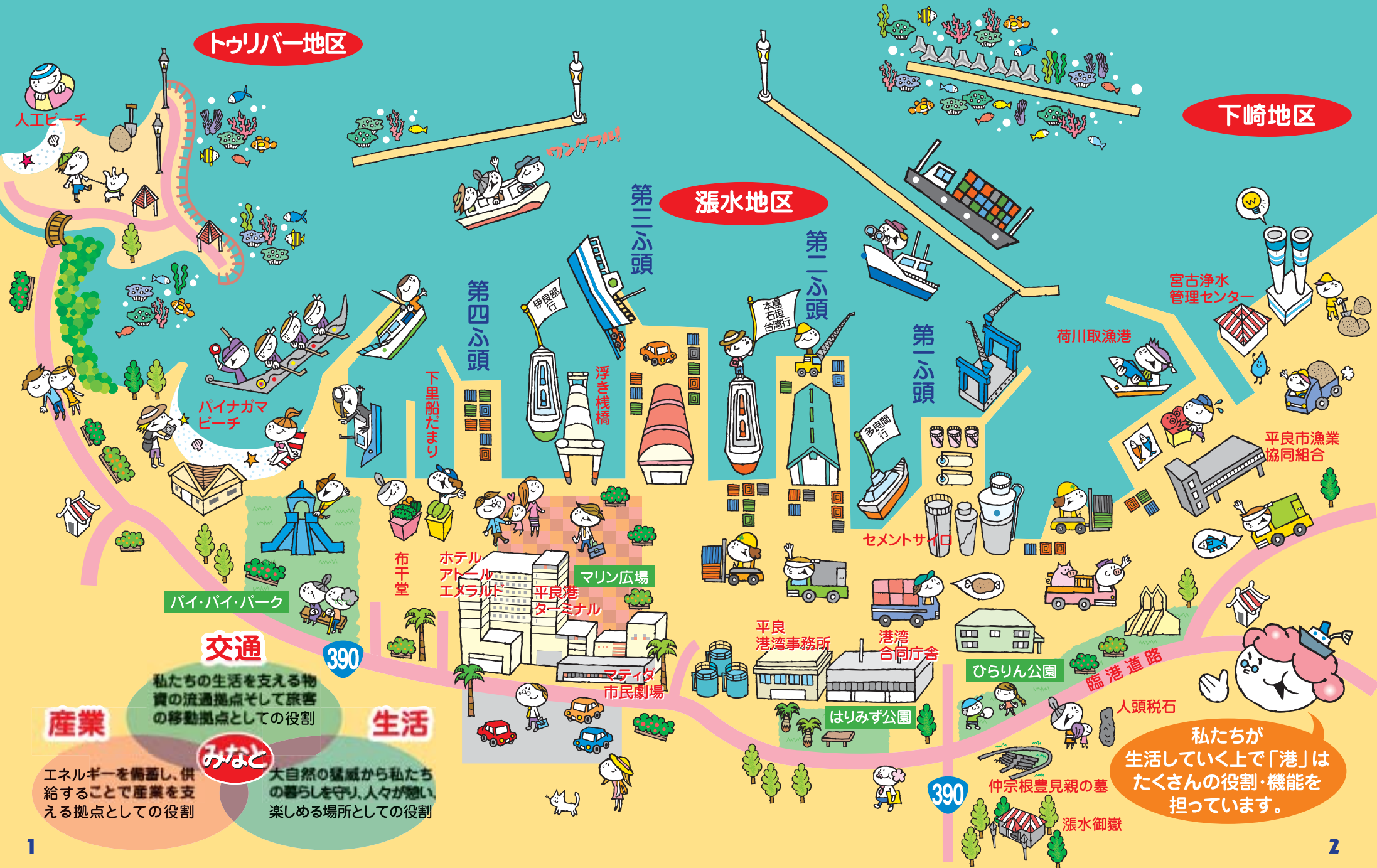


平良港のすがた

私たちの平良港はサンゴ
宮古島周辺離島をはじめ

礁に抱かれた美しい港であり、
沖縄本島、本土、海外への航路を持つ海の玄関口です。



トゥリバー地区

下崎地区

漲水地区

交通

私たちの生活を支える物資の流通拠点そして旅客の移動拠点としての役割

産業

エネルギーを備蓄し、供給することで産業を支える拠点としての役割

みなと

大自然の猛威から私たちの暮らしを守り、人々が憩い、楽しめる場所としての役割

生活

私たちが生活していく上で「港」はたくさんの役割・機能を担っています。

平良港の歴史

平良港は街の歴史とともに歩んできました。街の発展とともに整備され、人々の生活を見守り続けてきたのです。



近世の想像図

伝承

1705年に編纂された伝承記録「御嶽由来記」には宮古島の創世神が漲水に降臨したとの記述があり、宮古島の成り立ちと平良港が古くから深いかかわりをもっていたことを物語っています。

先史時代

～1500年

宮古島各地に豪族のような勢力が割拠する中、漲水はその拠点の一つとして沖縄本島、本土はもちろん、遠く中国や南方諸国と交易していたことが推測されます。

中世近世

1500年頃

宮古島の支配者となった仲宗根豊見親は蔵元（行政庁）を漲水御嶽の側に建て、漲水港は琉球王府への年貢の積み出し港として栄えました。

明治

1868年～

明治政府の誕生と文明開化の波の中、黒糖、宮古上布、経節を中心とした近代産業が興り、漲水港は産業、商業の中核として賑わっていきました。

大正

1913年～

街の発展とともに急激に増える物資に対応するため、初めて石積み棧橋が設置され、同時に漲水港を中心とした道路整備事業が始まりました。

昭和

1938年

港名が漲水港から平良港に変更されました。

1941年～

太平洋戦争が始まると平良港は出征兵士の見送り、日本軍の到着、学生や一般市民の疎開など、いっそう慌ただしさを増していきました。

1953年～

戦後復興の三大事業（電気・水道・港湾）により大型船舶が接岸可能な港へと整備されました。

1972年

沖縄本土復帰 国の重要港湾に指定されました。

平成

2004年

宮古圏域の人口は55,000人を超え、圏域の経済活動を支える平良港は近代港湾としてさらなる整備が進められています。

大正時代初期



▲港を中心に、商人たちの街並みが広がりました

昭和40年頃



▲港湾整備もすすみ、発展する平良市

昭和11年



▲ドイツ軍によって初の航空写真が撮影されました

昭和53年頃



▲人と物資が行き交う第二埠頭と旧ターミナルビル

昭和19年頃



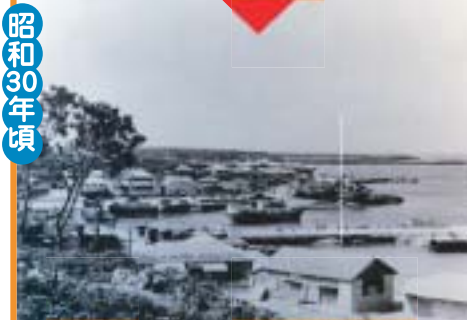
▲日本軍が平良港へ到着しました

昭和63年頃



▲港湾整備が進みほぼ現在の姿が完成しました

昭和30年頃



▲経済が盛んになり、造船所が建ち並びました

平成4年頃



▲宮古とともに港湾も近代化が進められています

みなとで遊ぼう!!

平良港では年間を通して様々なイベントが行われています。
また、市民の憩いの場となるよう公園やビーチも充実。
晴れた日には、のんびり港で過ごしませんか。



海神祭ハーリー (旧暦5月4日)

毎年3月上旬、海上の安全と豊漁を祈願して開催される海神祭。海の男たちの勇姿は迫力満点です。



みなとフェスタ

(7月海の日)

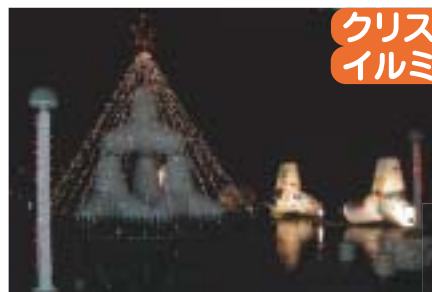
「海の日」を記念して開催される市民フェスティバル。市民参加のアトラクションやゲーム他、巡視船の試乗会など注目のイベント盛りだくさん。海に親しみ、港をとことん楽しもう。



ひらら市場

(第2・4日曜日/8時~11時)

みなとの活気溢れる朝市。地元各地から寄せられた生鮮食品がお買い得価格でならぶ。朝はみなとへ出掛けてみよう。



クリスマスイルミネーション

(クリスマスシーズン)

クリスマスシーズンには趣向をこらしたイルミネーションがみなとを飾ります。



全国でもめずらしい港に隣接する天然のビーチ。白砂がつづく静かなビーチは地元の家族連れに人気のスポットです。

パイナガマビーチ



パイ・パイ・パーク

鮮やかなブルーの遊具が目印の小さな臨海公園。開放感のあるロケーションで港を見渡してみよう。



マリナー広場

多くの人が行き交うターミナル前広場。活気に満ちたみなとの中心的存在です。



はりみず公園

のんびりとした雰囲気のある緑地公園。地元の人たちの憩いの場所です。



ひらりん公園

みなとに沿って細長く伸びる緑地公園。心地よい木陰で海風を感じてみよう。



トゥリバー地区

ウォーターフロントに新たに生まれたアメニティゾーン。自然の海岸線を生かした水際空間では、散歩やカヤック遊びを楽しむことができます。

美しいみなとのために

環境に優しいみなとの実現

宮古の美しい海を守り、自然と調和した港づくりをするために、様々な取り組みが進められています。その一つが「環境共生型防波堤」の建設です。それは港内と外海との海水を循環しやすくすることで、水質の保全を図り、港内を穏やかに保ちます。さらに防波堤の周囲や港内にサンゴを移築することで海洋生物豊かな美しい港を実現します。



消波ブロック

サンゴや海藻が着生しやすいように表面に溝加工がされています。



ハナミノカサゴ

通水型ケーソン

海水を循環しやすくすることで海洋生物豊かな港を実現します。



ハマクマノミ



キンセンイシモチ

枝サンゴ



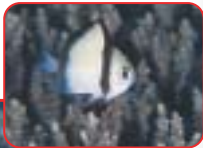
根固ブロック

ブロックに縦穴や横穴を設けることにより多様な生物のすみかになります。



クラカオスズメダイ

フタスジリュウキュウスズメダイ



デバスズメダイ

移築サンゴ礁

防波堤の建設予定地にあるサンゴを移築、保護します。

テーブルサンゴ



花いっぱい運動の展開



みなとの景観をより美しいものにするために、市民参加型の植栽活動を展開しています。さらに、今後はマリンターミナル周辺を中心に美しい花々でみなとを彩る運動が進行中です。

清掃活動の実施



行政側で実施している清掃活動に協力しながら市民参加型の定期イベントとしてクリーンアップ運動を展開しています。美しいみなとを守るためにもゴミは持ち帰るようにしましょう。

みなとの未来

四方を海に囲まれ、美しい自然と豊かな文化が息づく宮古島。
こうした島の特性を活かしつつ、観光・物流能力を高め、
人々のアメニティ空間を広げ、宮古の新しい時代を拓く、
平良港周辺ではそんな夢あふれるプロジェクトが動き出しています。



● 漲水地区マリンターミナルプロジェクト



緑地公園や旅客船ターミナルなど、人が集い、ふれあう快適なウォーターフロント空間を創出します。

● 下崎地区プロジェクト



宮古の新たな物流拠点として船舶の大型化等に対応したターミナル施設の整備などを行っていきます。

● 観光情報センターと歴史文化ロード整備計画

観光に関する様々な情報提供を行う拠点「観光情報センター」や街なかに点在する史跡・文化財を結ぶ散策ルート「歴史・文化ロード(平良線道)」など港を含めたまちづくり計画が展開されています。



漲水御嶽



人頭税石



仲宗根豊見親の墓


● コースタルリゾート計画 (トゥリバー地区)



宮古の自然や風土をベースとして「交流」「スポーツ」「アメニティ」などをテーマに本格的なマリンリゾート拠点を形成していきます。

平良港のヒミツ 教えて! みなと博士

私たちの生活に身近な港。でも知らない事がいっぱい!
そこで、みなと博士になんでもきいてみよう!!!



質問1

宮古における貨物の輸送量は海と空
どちらが多いでしょうか?

答: 海

宮古における貨物輸送は、ほとんどが平良港を窓口とする海上輸送。なんとその占める割合は、全体の99%以上。ちなみに、海上貨物の約半分は私たちの生活に身近な生活雑貨類でフェリーによって運ばれているんだよ。



質問2

平良港では年間、どれくらいの人々が
乗客として港を利用しているの?

(ちなみに宮古全体の人口は約5万5千人)

答: 約55万人

そのほとんどは伊良部島や多良間島など周辺離島による利用客ですが、他にも県内、県外など宮古を訪れる多くの人々が港を利用しています。たくさんの人々が行き交うみなとは私たち宮古の大切な玄関口なんだね。



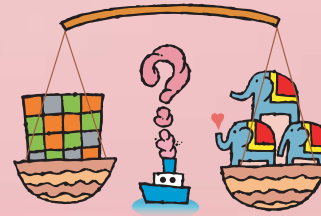
質問3

年間、平良港に出入りする貨物の量は
インド象に例えると何頭ぶん?

(ちなみにインド象1頭は、約5トン)

答: 30万頭 (約150万トン)

注※貨物容積を均一に重量換算した場合



港ではとっても多くの貨物が出入りしていて、そのどれもが私たちの生活に必要なものなんだよ。食品、日用品、石油、セメントなどが宮古に入ってくるし、砂糖や葉タバコなどが宮古から出て行くんだよ。

質問4

平良港の一番沖にある防波堤の海の底から
てっぺんまでの高さは何mぐらいでしょうか?

答: 約34m (下崎北防波堤)

波から港や船を守る防波堤。海上から見えるのはほんの一部で海の底からはかると平良市役所庁舎(約36m)とほぼ同じ高さになります。台風が多い宮古ではとっても重要な施設なんだね。



みなとは私達の暮らしを支えているんだね!

島の生活にとっても大事なところなんだよ!!



みなとの活用情報

船に乗って移動したい!

目的地によって利用する船舶が異なります。
詳細は各船舶会社の総合窓口へお問い合わせ下さい。

車で車や荷物を運びたい!

目的地と利用する船舶によって受付場所が異なります。また、有村産業(宮古通運)、琉球海運(宮古港運)では集荷サービスをおこなっていますが早めの連絡が必要になります。詳細は各船舶会社の総合窓口へお問い合わせ下さい。

[平成16年4月現在]

目的地	船名	所要時間	便数	料金 大人/子供(片道)	総合窓口	発券所	発着所	車・荷物の 受付場所
名古屋	飛龍	44時間	毎週1便運行	23,650円/11,830円(2等)	有村産業	①	A	宮古通運①
大阪	飛龍	58時間	毎週1便運行	21,550円/10,780円(2等)	有村産業	①	A	宮古通運①
博多	わかなつおきなわ	49時間	毎週1便運行	18,730円/9,370円(2等船室)	琉球海運	②	A	宮古港運②
鹿児島	わかなつおきなわ	46時間	毎週1便運行	17,450円/8,730円(2等船室)	琉球海運	②	A	宮古港運②
那覇	飛龍	8時間	毎週1便運行	4,250円/2,130円(2等)	有村産業	①	A	宮古通運①
	わかなつおきなわ	21時間30分 (石垣経由)	毎週1便運行	4,250円/2,130円(2等船室)	琉球海運	②	A	宮古港運②
伊良部島	高懸船うぶう/ゆがふ	10分	毎日約12便運行	400円/200円	宮古フェリー	③	B	宮古フェリー 手荷物のみ
	フェリーゆうむつ	25分	毎日約7便運行	360円/180円	宮古フェリー	③④	C	宮古フェリー 手荷物のみ
	第18はやて丸	12分	毎日約11便運行	400円/200円	はやて海運	⑤	B	はやて海運 手荷物のみ
	フェリーはやて	25分	毎日約7便運行	360円/180円	はやて海運	⑤⑥	D	はやて海運
多良間島	フェリー多良間	2時間30分	毎日1便運行	2,010円/1,010円	多良間海運	⑦	E	多良間海運⑦
石垣島	飛龍	4時間	毎週2便運行	2,070円/1,040円 (2等)	有村産業	①	A	宮古通運①
	飛龍21							
	わかなつおきなわ	5時間	毎週1便運行	2,070円/1,040円(2等船室)	琉球海運	②	A	宮古港運②
台湾(基隆)	飛龍	12時間	毎週1便運行	13,900円/6,950円(2等)	有村産業	①	A	宮古通運①
台湾(高雄)	飛龍21	24時間	毎週1便運行	16,300円/8,150円(2等)				
大神島	ニューかりゆす	15分	毎日約5便運行	350円/180円	大神海運	発着場所は島尻漁港です		

※有村産業、琉球海運の旅客運賃は利用等級によって異なります。
※船舶の運航は天候、その他の事情により変更される場合があります。詳細はお問い合わせ下さい。

お問い合わせ
(0980)

有村産業(宮古通運) ☎72-4900
宮古フェリー ☎72-3263
大神海運 ☎72-5477

琉球海運(宮古港運) ☎72-2046
はやて海運 ☎78-3081
多良間海運 ☎72-9209



はやて海運



宮古フェリー



琉球海運(宮古港運)



宮古フェリー



はやて海運



有村産業(宮古通運)



多良間海運